ECO NEWS

QMS . EMS
JIS Q 9001
JIS Q 14001
JSAQ 1001, JSAE 768

生ゴミの資源化！

焼却処分による負担を減らすには、生ゴミを肥料に加工して資源化すれば農業などにも活用できとってもいいのですが、実際こうした循環型社会をめざす地方自治体も多いものの導入はあまり進んでいないのが現実です。

環境省がまとめた２００８年度版「日本の廃棄物処理」を紐解いて見ると２００８年度の日本のゴミ総排出量は４８１０万トンで１兆８１６９億円の税金を投入して処理されています。これを一人あたりで換算すると１万４２００円負担している事になります。又、焼却で残った灰は全国で約１８００箇所の最終処分場に送られますが、今のままではあと１８年ほどで満杯になります。さらに細かくみると、一般家庭からでるゴミの重量は全体の約７割を占め、その約半分は生ゴミであります。

焼却ゴミ減量の必要性を約８割以上の焼却施設管理運営団体も感じていますが「実施を検討していない」「新たに取り組む予定はない」を合わせ９割以上に上ります。再資源化に消極な理由として施設に掛かる費用、地域住民の無関心などがあります。一方、成功している地域もございます。そこではゴミの分別の啓発活動をはじめとする住民とのコミュニケーション、小学校からの資源循環教育の充実、飼料づくりの創意工夫など様々な取組みを一生懸命おこなっています。

これらのことを踏まえゴミを減らし資源を再利用化するためには私たち一人一人、他人ごとでなく家庭、会社、地域にと密接に関わっていく必要性を改めて考えさせられます。

ロビーコンサート

5/14、ボランティアの富樫さん、大髙さんによるジャズ・ピアノコンサートが昨年に引き続いて行われました。新たな曲を披露いただき、まだ寒い天候が続いていましたが、会場は温かな雰囲気に包まれました。

アンコール曲「ふるさと」を患者様・ご家族も合唱し、ボランティアさんも「逆に元気をもらいました！」と患者様の力に感心されていました。

編集後記

いよいよ6月になりました。北海道はまだまだ夏到来という時期ではないのですが、病院の外からは蝉の鳴き声が聞こえてきております。

この時期の蝉の鳴き声は、いったい何を訴えているのか、私たちは今一度考えてみる必要があるのかもしれません。

これから来る夏に向けて、皆さま方それぞれの暑さに応じた衣･食･住のライフスタイルがあると思いますが、食のスタイルとしてラーメン食べ歩きはいかがでしょうか。

すべてのお問い合せは

郵便 〒064-8557
札幌市中央区円山西町4丁目7-25
札幌西円山病院　医療福祉課内
広報誌「にしまるやま通信」編集事務局

お気軽にお問い合わせ下さい！
電話 (011) 644-1380
FAX (011) 642-4347

医療法人 渓仁会

［医療法人渓仁会　札幌西円山病院　広報誌］

にしまるやま通信

NISHIMARUYAMA TSUSHIN

NO.69 2011年 5･6月号

撮影者：M.O

● さくらまつり　● ボランティア募集　● 看護部便り Vol.4
● ECO NEWS　● ロビーコンサート　● 編集後記

＊＊札幌西円山病院のご案内＊＊

■診療科目　内科、神経内科、リハビリテーション科、循環器内科、歯科
■病 床 数　866床（障害者施設等入院病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、介護療養型医療施設）

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています

さくらまつり

5月19日～23日まで院内で初めての試みである「さくらまつり」を開催いたしました。
「さくらまつり」は院内でも季節感を味わっていただくという趣旨のもと、患者様に桜の花びらを作成していただきポスターに掲示していただいたり、和室へ季節の生花や、桜をモチーフにした空間を提供し、春を感じていただきました。

開催期間の一日だけ通常デイルームで行っている喫茶店を和室で行い、通常の２倍近くの患者様にご利用していただきました。

ボランティアさん大募集　（銀の舟）

当院ボランティアグループ銀の舟では、活動できるボランティアさんを募集しております。

＜活動内容＞

- 患者さんが各種ボランティア教室活動（詩吟、書道、陶芸など）に参加する際の送迎
- ボランティアさんが運営している喫茶室でのウエイター・ウエイトレス
- お話し相手や囲碁・将棋などの個別の活動
- 通所リハビリテーション（デイケア）利用者様への食事の配膳下膳　など

＜お問い合わせ＞

ボランティアグループ銀の舟事務局
TEL 011-644-1380（医療福祉課内）
ボランティア担当／鈴木・宮田

看護部便り　Vol. 4

■３Ａ病棟の紹介

３Ａ病棟は介護病棟として位置づけられており、患者様の日常生活の援助を中心にケアを行っております。当病棟は、慢性期疾患による何らかの障害を持った患者様が多く入院されています。昨年末からリハビリスタッフも専従となり、医師･看護師･介護福祉士･ケアワーカーと各専門的視点からの情報を共有しあうことができ、患者様の“その人らしくもてる力”を活かした関わりの充実化を目指し、歩き始めました。

私達スタッフ一同は、入院生活を余儀なくされた患者様の思いを受け止め、人生の最終章である一日一日の時間の重みを感じ、ご家族そして患者様と心に残る時間を作ろうと、今年度はレクレーション活動に力を入れています。

主な活動として、春にはお花見レクを実施し、介護福祉士とリハスタッフがハンドベルによる演奏をしたり、歌を歌たったりし大盛況でした。初夏には外の空気･そして日差しを浴び心地よい時間を過ごして頂こうと、ベッド上生活を余儀なくされた患者様との散歩の会やスイカ割りの会も企画しています。毎月実施しているお誕生日会では、ご家族にお手紙に書いて頂き、会の中でご家族に読んで頂くか、スタッフが代読して言葉では伝えきれないご家族の思いを患者様へお伝えする時間を設けています。

ひと時ではありますが、心に残る時間として大切にすることで、スタッフもそこから得るものは大きく、一人の人間として成長できる学びをさせて頂いています。これからも“その人らしくもてる力”を引き出しながら、心に残るケアを提供できるよう努力して行きます。